

阿賀野川 えとこだより

aganogawa E-toko dayori



ここにあるすべてを、
かけがえのない「宝もん」へ。

旧三川村五十島・渡船場跡にて、元船頭さんから阿賀野川と共に生きたあの頃を伺う(撮影:JPS 日本写真家協会会員・山口冬人氏)

もくじ

特集1	あがのがわ環境学習ツアー	2
光と影に向き合う「ほんもの体験」はじまる。		
あがのがわ環境学習ツアーの3本の柱		
あがのがわ環境学習ツアー「主なプログラム紹介」		
あがツアー体験記「日帰り学習レポート」		
特集2	阿賀野川エコミュージアムを目指す	6
流域再生プログラム開催レポート		
インフォメーション		8

阿賀野川流域の“光も影も”未来へ伝えていくために

現在、阿賀野川流域全体を舞台に展開する「阿賀野川えとこだプロジェクト」と「阿賀野川エコミュージアム構想」。この2つの流域再生プロジェクトから生まれた様々な環境学習プログラムを、県内外から流域を訪れた多くの方々に体験していただくため、「あがのがわ環境学習ツアー」という取組が昨年より始まっています。

こうしたツアーは通常、新潟水俣病の教訓を伝えるツアーか、阿賀野川流域の魅力を伝えるツアーに、完全に分離しています。しかし、これまでの地域再生の経過や流域の現状を踏まえると、両方を(時には組み合わせて)展開できるツーリズムの仕組みが必要だと考え、「あがのがわ環境学習ツアー」が立ち上がりました。

こうした試みを着実に前進させていくことで、全国の人々が阿賀野川流域を見る目がどう変化するか、一方でそれが流域の未来にどう影響してくるのか、今号の特集などを通じて、流域の皆さんと共に考えを深めていければ幸いです。

「新潟水俣病の教訓」を伝える
「阿賀の宝もん」も自慢できる
新しいツーリズムが始まった

「小学校の先生方へ!」

あがのがわ
環境学習
ツアー

総合学習応援企画

“ほんもの体験” 参加クラス募集!



新潟水俣病を学習できます

今も昔も流域に様々な恵みをもたらしてくれる阿賀野川。しかし、過去にこの大河で起きた悲しいできごとを現地で学習できる機会は、あまり多くありません。

そこで、小学校5・6年のクラスを対象に、総合学習や道徳などの授業の一環として、先生が無料で利用できるプログラムを提供いたします。

対象 五泉市・阿賀野市・阿賀町の小学校5・6年のクラス(20名前後～40名前後)

内容 ① かつての企業城下町・鹿瀬の現地見学
② 元・船頭さんが現地で語る公害の被害

費用 プログラム受講は無料(※バスや昼食についても原則的に負担可能)です。

募集期間●H25年9月～11月



申込 〔一社〕あがのがわ環境学舎
TEL&FAX 0250-68-5424



「阿賀野川えとこだプロジェクト」とは?

正式には「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」(通称FM事業)と言い、阿賀野川流域の各地域が今も続く新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」を紡ぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指して始まったプロジェクトです。

阿賀野川えとこだ! 憲章(事業理念)

私たちは新潟水俣病に学び教訓を伝承することで、負の遺産から新たな価値を創造していくことを目指します。阿賀野川流域の宝物を広く内外に発信しながら、公害により失われた人と人、人と自然、人と社会の絆をつむぎ直していきます。地域を愛する人が地域の未来をつくる「流域自治」の確立へ向けて行動します。

(阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業推進委員会)

編集後記

第10号はいかがでしたでしょうか?

「あがのがわ環境学習ツアー」は一般社団法人あがのがわ環境学舎の独自事業として運営していますが、特集でご覧いただいたとおり、阿賀野川流域の様々な団体の方々から支えていただいております。そのおかげで、「阿賀野川流域を“ほんもの体験”できたよ!」との言葉を参加された方々から多くいただいております、この場を借りて深く感謝申し上げます。

平成25年度もはや折り返し地点に近づき、後半戦に突入しようとしています。次号も阿賀野川流域の“ほんもの”を発掘して参りたいと思いますので、ご期待ください。

阿賀野川えとこだより 第10号

発行:新潟県(※環境省補助事業) 発行日:2013年8月23日
企画編集:一般社団法人あがのがわ環境学舎(〒959-2221 阿賀野市保田 3866-1)

TEL.&FAX.0250-68-5424
aganogawa@niigata.email.ne.jp

「阿賀野川えとこだ! ブログ」
<http://www.aganogawa.info/>

リニューアルまであと一歩...



I 公害関連の環境学習プログラム

公害に向き合う



旧昭和電工株鹿瀬工場正門前からガイド



元船頭の被害者の方が現地で語る(阿賀町五斗島)



旧昭和電工株鹿瀬工場高台からガイド

なぜ新潟水俣病が発生するに至ったのか。被害者の方はこれまで何に苦しんできたのか。その頃の流域の暮らしや産業はどう関係していたのか。様々な視点から歴史の光と影の1コマに向き合い考えを深めていくプログラムの数々です。紙芝居や映像によるユニークな座学を体験後、専門ガイドなどが実際に現地を巡って案内します。

2 流域の産業・自然体験プログラム

公害を乗り越える



「やすだ坂ロード」のバス停留所で一休み



広大なブナ原生林(阿賀町旧尊の倉山)



神田酪農の牛舎(阿賀野市六野瀬)

公害を経験した流域だからこそ、全国に向けて胸を張って発信できる独自の環境取組や地域づくりが始まっています。そうした中から、上流域に広がるブナ原生林など豊かで貴重な自然資源や、中流域独特の風土が生み出した安田瓦や酪農などの地場産業の取組などを、地元ガイドの案内で体験できるプログラムの数々です。

3 流域の貴重な郷土料理

阿賀野川流域独特の風土と文化が生み出した、珍しい伝統食や郷土料理。流域再生の過程で発見した、そうした食の数々を1つのお膳の中に集めた「豪華な粗食」を提供します。



豪華な粗食

※写真は一例です。「豪華な粗食」は一般社団法人あがのがわ環境学舎の登録商標です。

特集1

あがのがわ 環境学習 ツアー

光と影に向き合う “ほんものの体験”、はじまる。

阿賀野川流域がかつて体験してきた光と影の歴史から
これからの未来に生かせる教訓を伝えるために

特集レポート!

阿賀野川 最後の帆船(昭和25年・五泉笹堀) 撮影木村清氏・提供木村仁氏

かつての阿賀野川、公害の発生…

かつて阿賀野川では帆かけ舟が多数往来し、大河の恵みを享受した地場産業や大企業が栄え、潤いのある暮らしが営まれていました。

そんな流域社会も、昭和の高度経済成長を迎えて繁栄が続けた後、新潟水俣病が表面化した昭和40年代を境に、時代の曲がり角を迎えました。失われゆく原風景、徐々に疲弊する地域、長引く新潟水俣病問題…。

2つの流域再生の取組が始動して

やがて、新潟水俣病の公式確認から40年以上経過した平成19年、まずは流域が公害と向き合うきっかけを生み出すために、新潟県が主導して阿賀野川流域の地域再生の取組「阿賀野川えとこだプロジェクト」が本格的に動き出しました。

その動きは民間に受け継がれ、一般社団法人あがのがわ環境学舎が誕生。今では、流域の観光・地場産業・環境NPO、まちづくり団体などを巻き込み、「阿賀野川エコミュージアム構想」を掲げて公害の経験乗り越えつつあります。

「阿賀の宝もん」体験を全国の方々に

そして、光と影の歴史に向き合い流域再

流域再生の始まりとこれから

H19 ~

阿賀野川
えとこだ
プロジェクト

H23 ~

阿賀野川
エコ
ミュージアム

これから

あがのがわ
環境学習
ツアー

次ページでツアーを構成する3本の柱を紹介!

生に取り組む中から、「人と人の絆」「人と自然の関係」を紡ぎ直す知恵を学べたあがのがわ環境学舎では、そんな自慢すべき「阿賀の宝もん」を全国の方々にもお伝えしたいと考え、「あがのがわ環境学習ツアー」を始めました。